



以下に記すのは「爆破予告」の結末です。
脱出に成功した場合のみ、読んでください。

爆破未遂事件の翌日、犯人の犯行声明が新聞の朝刊に掲載されました。それを読んだあなたはウィリアム・テラーという人物について興味を持ち、彼に面会を申し込むことにしました。ウィリアムを理解することは、今後もあなたが対峙するであろう爆弾犯たちをより深く理解し、その犯行を未然に防ぐことに役立つように思えたからです。

接見室に入ると、手錠で椅子につながれたウィリアムが座っていました。彼は堂々としていて、にこやかにあなたを迎えます。

「ようこそ！ 私の偉業を理解してくれる信奉者のご登場だ。さあ、座って」
あなたはあえてウィリアムの誤解を解くようなことはせず、いくつかの疑問をぶつけてみました。

爆弾を作った目的は？

——この穢れた世界を聖なる光で浄化する必要があったから。聖なる光は善良なる人々には影響がなく、邪悪なる人々のみを滅ぼすことができる。そうすればこの世界からは邪悪なものが消えて、すべてが美しく完全なものとなる。

善良と邪悪の差とは？

——今の社会を牛耳っている資本家、経営者、政治家こそがこの世界から消滅すべき邪悪の根元だ。自分も母もこうした邪悪な連中にいつも傷つけられてきた。おのれの利益のために他者をふみにじり、抑圧し、支配しようとする彼らの抹殺こそが、神から与えられた自分の使命だ。神は夢の形を借りて自分にその使命を伝えてくれた。

事前に発覚するリスクがあるのに予告状を送った理由は？

——人々には、浄化の光を目撃する権利がある。神が自分を使って成さしめたこのすばらしいショーを見逃すなんてもったいない。多くの人を知るべきだった。それなのに、いったいどのどいつが爆弾を見つけて解除したのか。そいつは悪魔の手先に違いない。そいつも、そいつの家族も、必ず地獄に送ってやる。絶対に！

話題が爆発を阻止した人物のことになると、ウィリアムは激しい怒りをあらわにしました。あなたは自分がその人物であるとウィリアムに伝える気持ちにはなれませんでした。ウィリアムの感情はとても強烈で、あなたが身の危険を感じるほどだったのです。

会話を終えたあなたのウィリアムへの評価は、次のようなものでした。誇大妄想、歪んだ正義感、他者への憎悪、自己中心性。その混乱した人格から考えて、彼は裁判で責任能力を問われない可能性が高そうです。あなたはウィリアム・テラーという怪物に不気味さを感じながら接見室を後にしました。これから先もウィリアム以上の怪物と対峙しなければならない可能性を考えると、あなたは身が引き締まる思いになります。あなたは決意も新たに、愛すべき人々が暮らす守るべき街へと足を踏み出すのでした。

